



記念事業  
ダイジェスト

## ① 事業の始まり

本コーナーでは、庫裏（くり）・門徒会館建設事業の始まりと現在までの経緯を振り返ります。  
 本事業の計画は、平成30年11月の住職継職法要の記念事業の一環としてスタートしました。

思い返せば、当時の責任者である先代住職の急逝、それに伴う大幅な計画の変更、なにより私自身の未熟さにより、ご門徒の皆さまには多大なご混乱とご負担をおかけしたことかと思えます。

本事業遂行におけるご門徒皆さまの大きなご助力、誠にありがとうございました。



↑継職法要の様子。  
 沢山の可愛らしいお稚児（ちご）さんがご参加くださいました。

## ② 庫裏・門徒会館とは？

そもそも庫裏（くり）・門徒会館とは何なのかとよく聞かれます。色々な解釈がある言葉ですが常高寺では次の様に使い分けています。

**「庫裏（くり）」**  
 寺族（お寺の僧侶とその家族）の居住場所及び事務作業場等。

**「門徒会館」**  
 来寺者が利用する、本玄関、応接場所、集会所、トイレ、厨房、客間、また仏具等の収納場、本堂と繋がれるバリアフリー設備等、諸々を含めた総合施設。

今回の記念事業では、ご門徒の皆さまにご利用いただく「**門徒会館**」にご懇志を当てさせていただきます。

以前の建物は老朽化が進み、本堂と連なる施設として安全性が心許ないものでした。また、年々増加するお寺の施設を利用したご法事の在り方に、対応仕切れておらず、ご不便をおかけしている現状がありました。

新しい門徒会館は、法事も行える多目的の室の設置、お足の悪い方でもお参り可能なバリアフリー設備、お子さん連れの方にも対応した各種トイレの設置等々、様々な方に利用いただける施設となります。

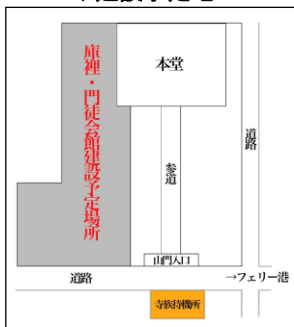
## ③ 設計・施工・棟梁

建物の設計・監理は福岡市に本社を置く「株式会社 東京堂宮」さんに依頼しました。主に寺社仏閣を専門とした設計士さんです。多くの寺院設計に携わり、西本願寺の支部寺院である鹿児島別院の設計等も担当された実績があります。過去に私の実家のお寺（島根県 浄光寺）の庫裏・会館を設計していただきました。ご縁もあり、依頼させていただきました。

建設責任者（施工管理）は、地元の業者を含む計六社の見積もり合わせの結果、北九州市に本社を構える「株式会社 田中」さんに決定しました。こちらも多くの寺院施設を建てた実績ある会社です。

実質的な工事作業を担当する建設会社（大工棟梁）は、地元今治市玉川町に会社を構える「小林建工」さんに決まりました。多くの宮大工が所属する、凄腕の大工さんです。

## ↓建設予定地



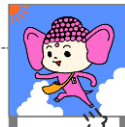
## ④解体開始

コロナ禍のため延期もありましたが、**令和3年の5月**に無事、建物の解体作業が始まりました。現場の方の迅速な作業により、一月余りの間に建物の解体は終了しました。

〈解体前〉 ← 以前の建物



〈解体後〉 ← 二つして見ると広いです



## ⑤起工式

**令和3年7月15日**、建設開始を祝う起工式を執り行いました。

← テントを設置



← 仏式のお荘厳



← 鉄くわ入れの儀



## ⑥基礎工事⇒組立てへ

建物を支える大切な作業。約3ヶ月におよぶ丁寧な基礎工事を経て、組立てが無事終了しました(⇒1頁目の上棟式の記事に続く)。ご利用いただけるの**令和4年夏頃**の予定。皆さまのご協力により建つ皆さまのための門徒会館。ぜひご活用ください。

①基礎工事の様子



②きれいな基礎



③本堂までのスロープ



④組立ての様子



⑤組立ては僅か三日



⑥屋根上からの写真



仏教学  
講座

## 住職さんに聞くゾウ! (第四話)

「法ってなんだゾウ? (前編)」

※前後の話は、ホームページでも確認出来ます。

## ●前話のあらすじ

・仏教の目的、つまり「仏」に成るといえるのは、「自分の欲するもの」「望む環境」を手に入れるということではない。  
 ・仮に天国の様な恵まれた環境にいても、それを維持しようと求める煩惱があり(若いままでいたい、健康でいたい、死にたくない等)、それは決して叶わない故に苦しむ。  
 ・あらゆる苦しみの原因はこの「煩惱(執着)」にある。  
 ・「法」に目覚める事により、この「煩惱」を断ち切った者が「仏」。「法」とは何か? ↑今回はここ!

「うーん、僕たちの苦しみの原因は『煩惱』にあつて、『法』に目覚め仏に成ったら、その『煩惱』から離れて苦しみも無くなるんだよね?」

「そう説かれてるね。」

「『法』って『法律』のこと? お釈迦さまが説いたんだよね? お釈迦さまが作ったの?」

「『法』と聞くと、そう連想しちゃうかもね。今回も一緒に考えてみよう。まずこの『法』だけど、元々はインドのお経の言葉『ダルマ』が原語なんだ。」

「『ダルマ』って、『だるまさんが転んだ』の?」

「うん、だるまさんは禅宗の開祖 達磨大使(だるまたいし)がモデルみたいだけど、この方もきっと『法』の原語『ダルマ』から名前を頂いたんだろうね。」

## 人物紹介



常高寺の新住職  
コラ好きですが、  
最推しています。



きぞう君、常高寺の公式キャラクター!  
牛乳好き、スジャータブランドの製品が  
特に好き。

「この『ダルマ』。確かに『法』と漢訳されるんだけど、それだとさつき、きぞう君が言ったみたいに『法律』のイメージに引つ張られるかもしれないね。『法律』はあくまで人が定めるルール。区別化するために、『真理』や『理(ことわり)』と言ひ換えた方が誤解がないと思うんだ。」

「『ことわり』?」

「そう『理(ことわり)』。人の営みも含まれるんだけど、更にそれを超えた、全ての時間と空間に存在し通ずる不変の『ことわり』という意味だね。だからお釈迦さまが『法』を作ったとうとちよつと違うと思う。『法』つまり『ことわり』は、もともと在って、それを歴史上初めて皆に説かれた方が、お釈迦さまとされているんだ。」

「ぞぞう!!! それじゃあ、お釈迦さまは『法』の発明者じゃなく、発見者ってこと!?!」

「そういうことかな。この『法』は本来、言葉では表現出来ないもの、言葉を超えたものと言われるんだけどね。お釈迦さまは状況に応じて色々な譬え、形を用いて、この『法』を説かれた。もちろんこれ一つで『法』のすべてが言い表されているとは思わないけど、その中で中心となる教えは何かと言えば、『縁起』だと思うんだ。」

「『えんぎ』? 『茶柱が立つて縁起がいい』のあの『縁起』?」

「そうそう、その『縁起』。元々は仏教の言葉なんだよ。現代語では吉凶の前触れを表す言葉として用いられがちなんだけど、本来の意味は違うんだ。」

「縁って起くる(よつておこる)」と書いて『縁起』。つまり**『全てのごとは、様々な原因に縁つて起くる』**

だから仏教は、何か一つの原因、例えば神様によって全てが生まれるといった一神教の立場は取らないし(一因説)、だからといって全てのものごとは偶然起くるという立場(無因説)も取らないんだ。」



「『縁起』って元々そういう意味なんだ！どんなことにも必ず色んな原因があるってことだね！」



「そう。その色んな原因、影響がより集まって、私たちと世界は成立していると説かれるんだ。これが『縁起』。仏教の教えの根幹にはこの考え方がありとされていてね。そこから派生して、仏教は『無常』と『無我』という教えを説くんだ。」



「『むじよう』と『むが』？なにそれ？  
『ああ、むじよう』と関係ある！？アン・ルイスの。」



「残念ながら無いかな(笑)  
(レ・ミゼラブルじゃなくて、そっちなんだ。。。)  
それは『無情』、『無常』とは『常なるものは無い』ということ。」

「この世にあるものは、様々な原因が影響し合い、形作られているのだから、常に変化してとどまることがない」という意味だよ。」



「ん、『縁起』だから『無常』ってこと！？」



「そうだね。そして『縁起』だから『無常』であり、『無我(むが)』でもあると言われるんだ。『無我』というの

は『我(が)』は原語を『アートマン』といってね。この言葉は少し説明がいるんだけど、仏典においてこの言葉は、  
①『自己』を意味する時と、②『たましい』の様な意味合いで用いられる時があるんだ。

①は『わたし』や『わたしのもの』という執着を離れた『自己』を確立しなさいという意味合いで。  
②は存在をその存在たらしめて不変の『たましい』の様なものはないですよという意味合いで。  
つまり『無我』というのは、きくぞう君。」



「・・・Zzz・・・はあつ！！！  
・・・ね、ねてないゾウ！！  
ちよつとポーっとしてただけだゾウ！」



ちう～



「だいじようぶ？？たましいみたいなのが出たよ(笑)  
ごめん、少しややこしかったね。まあとにかく、  
『全てのものは様々な因縁のもと影響を受け常に変化しているのだから、拠り所としての揺るぎない確固たる私や私ものはどこにも存在しない』  
それが『無我』なんだ。」



「うーん。ちよつとまとめるゾウ。。。  
つまりぼくらの世界にあるものは、色んなものが影響し合っ成り立っているから(縁起)、変化していくし(無常)、だからぼくにとつて永遠に変わらない絶対的なものは無い(無我)ってことだよ？  
『縁起』だから『無常』だし『無我』なんだゾウ。」



「そう。その三つは同じ線上で考えられていることかと思うんだ。この『無常』と『無我』に、前回話した『涅槃(ねはん)』の教えを加えて、『三法印(さんぼういん)』と呼ばれていてね。仏教の『法』の三つの旗印とされるんだ。或いはこれに『一切皆苦(この世は苦しみの連続)』の考え方を加えて、『四法印(しほういん)』と呼ばれることもあるよ。」

### 【三法印】

①諸行無常・・・様々な因縁により形作られたすべてのものは、刻々と変化してとどまることがない  
②諸法無我・・・全てのものに永遠不滅の実体(我)はない  
③涅槃寂靜・・・煩惱の火が吹き消された状態は、苦しみの無い安穩の世界である



「その三つ(四つ)が『法』のシンボルなんだね。。。でも待つゾウ。それは分かったんだけど、その『法』に目覚めることが、何で『苦しみ』から離れることに繋がるんだゾウ？？」



「うん、縁起や無常・無我の『法』と、人の持つ苦しみの関係性についてだね。今回はこのことについて一緒に考えてみよう。」

次回 第五話「法ってなんだゾウ？(後編)」に続く



僧侶紹介

## 風船で僧侶紹介

寺報『あまね』の第2号で好評をいただきました「風船で家族紹介」のコーナーの僧侶版です。お参りでお会いした際は、ぜひ見比べてみてください。



### 加藤 大地 (かとう だいち)

常高寺の住職です。出身は島根県。平成26年から常高寺に入寺しました。趣味はバルーンアートです。

立場上は住職ですが、常高寺の僧侶の中で一番の若輩。まだまだ覚えなないといけないことがたくさんあります。顔を合わせたことがないご門徒さんも沢山おられます。お会いした際には気軽にお声がけください。



### 堀江 照雄 (ほりえ てるお)

先代の頃からお寺を支えてきた大先輩僧侶。お寺で分からないことがあれば堀江さんに聞けというのが、わが家の家訓になっています。

堀江さんのお父さんから二代にわたり常高寺に勤めてくださり、ご門徒さんとの繋がりも最も深いお坊さんです。先代住職と同年。身体には気を付けて未永くお勤めしてほしいです。



### 間嶋 裕二 (ましま ゆうじ)

令和元年から常高寺にて勤めてくださっています。待望の新法務員さんです。多趣味で様々なことに精通し、何でも出来る頼りになる方です。堀江さんもそうですが、貫禄含めて私よりよほど住職オーラが出ています。

和歌山から来ていただきましたが、生まれは愛媛県の西条というご縁もあります。

秋彼岸会法座 (9月)



当山住職 加藤大地

孟蘭盆会法座 (7月)



教専寺住職 福間義朝先生

秋永代経法座 (10月)

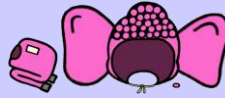


専明寺住職 藤本唯信先生

行事  
報告

お盆 & 秋彼岸 & 秋永代経法座  
「動画配信」しました

令和3年7月のお盆会、9月の秋彼岸会、10月の秋永代経法座は、コロナ禍における県内の感染状況を考慮し、一般の参拝は中止。法要の様子を期間限定で動画配信し執り行いました。映像を通して多くのお聴聞、ようこそようこそのお参りでございました。



報恩講法座 & 除夜の鐘 & 修正会をお勤めしました

令和3年11月は報恩講のご法座(講師 当山住職)、年末は除夜の鐘、新年は修正会の初参り。本当に久しぶりのご門徒さんを招いての行事でした。動画の配信で繋がったご縁もあります。皆さんの顔を見ながらお話しするのは、やはり反応がありとても嬉しかったです。皆さんも元気な様子で安心しました。



報恩講①



報恩講②



報恩講③



報恩講④



除夜の鐘①



除夜の鐘②



修正会①



修正会②

# おしらせ

## 今後の行事予定

三月十四日(月) ～ 十五日(火)

春季彼岸会法座 中西昌弘先生

四月二十四日(日) ～ 二十五日(月)

春季永代経法座 岡原弘和先生

五月二十一日(土)

降誕会法座

七月十八日(月) ～ 十九日(火)

孟蘭盆会法座 平山義文先生

九月十九日(月) ～ 二十日(火)

秋季彼岸会法座 喜多唯信先生

十月十八日(火) ～ 十九日(水)

秋季永代経法座 川上順之先生

十一月二十七日(日)

報恩講法座 当山住職

十二月三十一日(木)

除夜の鐘

※状況をみて、開催の可否に関しましては、都度ご連絡いたします。

きくそう君を探せ!

紙面のどこかに次のきくそう君がいるよ!



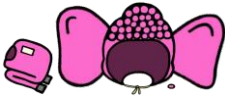
ドロン!だゾウ



時をかけるゾウ



あけおめだゾウ



こ、これは。。

## 令和4年度年忌案内

左記の年に亡くなられた方は、今年、年忌に当たられています。50回忌まで葉書でご案内しておりますが不備もあります。念のため各家の過去帳にてご確認をお願いいたします。

1 周忌	令和3年	100 回忌	大正12年
3 回忌	令和2年	150 回忌	明治6年
7 回忌	平成28年	200 回忌	文政6年
13 回忌	平成22年	250 回忌	安永2年
17 回忌	平成18年	300 回忌	享保8年
25 回忌	平成10年	350 回忌	寛文13年
33 回忌	平成2年	400 回忌	元和9年
50 回忌	昭和48年		

## 編集後記

昨年はコロナ禍の影響もあり、お寺としましても、例年通りの形でおつとめすることが難しい年でありました。一方で、動画の配信などの新しい試みに挑戦することが出来た年でもありました。また、庫裏・門徒会館建設が開始された記念すべき年ともなりました。中々、計画を立てることが難しい時節柄ではあります。今できることを一つ一つ重ねて、ゆつくりでも一歩一歩歩みを進ませたいければなと思っております。本年も様々な形を通して、ご門徒の皆さまとのご縁を繋げられる様に、つとめさせていただきます。今年もよろしくお願いたします。

常高寺住職 加藤大地